

平成20年度 第1回（平成20年5月16日）図書館運営協議会 会議要旨

1. 出席者

運営協議会委員（7名）

三輪会長・宮内委員・武田委員・油井委員・小野委員・高橋委員・峯村委員

図書館側委員（4名）

小柳中央図書館長・関根奉仕係長・柴奉仕係主査・池田戸山図書館長

図書館事務局

佐藤雅英副館長・佐藤公彦企画調整主査・宮下主任主事

2. 場所 中央図書館4階大会議室

3. 開会

- (1) 会長挨拶
- (2) 委員の出欠について
- (3) 図書館運営協議会について
- (4) 議題（報告事項「平成20年度の区立図書館の運営目標について」）について
- (5) 新任委員へ委嘱状伝達及び新任委員挨拶

4. 平成20年度の区立図書館の目標についての説明（事務局より）

- (1) 平成20年度新宿区教育委員会事務局の組織目標について

目標1 「生きる力、確かな学力をはぐくむ学校教育の充実」（教育委員会基本方針2）

目標2 「魅力ある教育環境づくりの推進」（教育委員会基本方針3）

目標3 「心身ともに健康で、人間性豊かな区民の育成」（教育委員会基本方針1）

目標4 「学校・家庭・地域の連携強化と区民が学ぶ環境整備」（教育委員会基本方針4）

目標 5 「好感度一番の区役所の実現、公共サービスのあり方の見直し」

(2) 平成 20 年度の区立図書館の目標について

① 「新しい中央図書館のあり方の検討」 (目標 5 「公共サービスのあり方の見直し」)

新宿区第一次実行計画に挙げ、新中央図書館の整備に向けて調査・検討を進め、21 年度に専門家と区民による検討組織を設置する予定ですが、その事前の調整を今年度中に行ないます。新しい図書館は旧戸山中学校の跡地に建設すると決まっていますが、図書館の機能等の詳細はこれから詰めていきます。

② 「図書館におけるインターネット利用可能なパソコンの設置」

インターネットに接続できる利用者向けパソコンを全館に設置します。中央図書館に 3 台、こども図書館に 1 台、そのほかの地域館 8 館に 1 台ずつ設置します。21 年 1 月中に設置し、2 月から稼動する予定です。1 月の工事の際には中央図書館の 4 階の視聴覚資料を 3 階に移し、カウンターを統合して、図書と視聴覚資料の貸出・返却を行なえるようにします。また 3 階の閲覧スペースにパソコンを持ち込み利用できるスペースを設けます。

③ 「図書館における I C タグ及び自動貸出機の導入」

図書資料のほか視聴覚資料にも I C タグを貼付し、電子的に管理します。図書館資料は現時点では 85 万点ですが、これから 20 年度の購入等により約 5 万点強の数が増える予定です。また自動貸出機については全館で 13 台を設置します。9 月以降、中央図書館をはじめ各地域館 8 館で I C タグの貼付作業を順次行い、21 年 2 月からの導入を考えています。それに伴い、特別図書整理期間の短縮による休館日数の減等も実現します。また自動貸出機の導入により、プライバシー保護と貸出処理の迅速化を実現します。

④ 「図書館カウンターサービスの向上」

全館に I T 機能を装備したレファレンス専用カウンターを設置して接遇向上も図って行きます。1 日 60 件のレファレンスを数値目標とします。レファレン

ス能力の向上の手順として職員にデータベースの検索技法を習得させ、利用者により良い情報を提供できるようにします。接遇の向上についてはマニュアルを作成するなどして、今まで以上に区民の皆様に気持ちよく思っただけの接遇を心がけていきます。

⑤「子ども読書活動の推進」

3月に作成した「第二次新宿区子ども読書活動推進計画」に従い実現して行きます。数値目標として「図書館を利用した子どもの人数」を9万7千人から11万5千人に増やすことを挙げていますが、これはおよそ2割弱の子どもの利用増進を図ることになります。併せて「児童図書の実質」、「病院配本サービスの充実」、「読書に関する親力の向上」を図っていきたくと考えています。「読書塾の開設」につきましては本を読む楽しみの技術や環境づくりをどうやって考えるのかということを検討していきます。

⑥「絵本でふれあう子育て支援事業」

この事業は今まで図書館として健康部の事業をサポートしていたもので、今年度から中央図書館に所管換えになりました。一般的には「ブックスタート」と言われています。3～4ヶ月児健診の受診率は今まで平均92%程度ですが、健診の際に前年度に選定した絵本をお配りして読み聞かせを行ないます。牛込・四谷・西新宿・落合の4つの保健センターにボランティアが出向き、そこで健診の終わった親御さんに対して読み聞かせを行ない、本の楽しみ、あるいは図書館のご利用をご案内しています。参加の割合は平均63%です。21年度からは、いままでの3～4ヶ月児健診に加え、3歳児とその親御さんに対して読み聞かせを実施します。

⑦「学校図書館の運営の充実」

昨年度までで学校図書館の充足については100%達成していますが、更にサポートしていくため、学校図書館・児童館・保育園等への月に1度の団体貸出の割合と貸出冊数を増やしていきます。子ども読書活動推進計画が始まった時から、団体貸出用の子どもの図書は通常の購入予算枠のほかに300万円強の予算をつけて、随時購入し、蔵書を増やしています。学校図書館については、司書の派遣のほかにも機能アップを図っていきます。

⑧「障害者への朗読・配本サービス」

今年度以降の事業としてデージー図書（CDにコンピュータ処理で音声を吹き込み、何ページの何行目の段落のところからと指示して聞ける音訳図書）の作成にあたり、運営のボランティアを養成しながら蔵書構成の拡大を図っていきます。

⑨「図書館（地域館）への指定管理者制度の導入」

現在条例等の改正作業を進めていますが、21年度から3年間かけて指定管理者制度を導入します。21年度の対象は、複合施設である戸山図書館・北新宿図書館・中町図書館です。戸山図書館は生涯学習館との複合施設です。北新宿図書館は保育園・ことぶき館・児童館との複合施設で、隣には生涯学習館があります。中町図書館は保育園・児童館との複合施設で、北側には愛日幼稚園があります。今年度中にプロポーザル等を行い、指定管理者を決定して来年度に向けた準備を進めていきます。

5. 質疑応答・意見交換

(1) 録音図書について

【運協委員】

デージー図書とはどのようなものですか。また今後カセットテープは使わないのですか。全く新しいデジタル録音を、音訳者を養成して作るという方向と、元からあるカセットテープをCDにデジタル化していくという2方向で変えていくのですか。

【図書館委員】

デージー (Daisy) は「Digital Accessible Information System」の略です。

テープですと早送り等で聞きたいところを探しますが、デージー図書はCDでインデックスがあるので、一瞬で頭出しができます。CDは音質の劣化が少なく、長期間保存でき、優れた検索性があります。またカセットテープの30倍の収録力があり、省スペースになります。国際標準で決まっているので、オンラインで発信できるなどマスコミでも話題になっています。戸山図書館ではボランティアの養成を進めています。デジタル化はほとんどコンピュータで処

理する作業で、音訳と編集それぞれに専門性の高い技術を要します。カセットテープについては、メーカーが生産しなくなってきています。録音図書もCD-ROM化が進んでいます。カセットテープは戸山図書館だけの所蔵で、20年3月末現在で2,782本あります。劣化が激しいので、利用できない状態のものについては換えていかざるを得ません。

【事務局】

カセットテープをCDにデジタル化していくことについてはまだその方向性だけ出しているところで、実際の作業はまだ進めていません。音訳者の方を養成するにあたり、テープに吹き込む技術的な内容は、我々が日常使う言葉とは抑揚のつけ方など全く違います。一言一句全部辞書を引いてその言葉の意味を捉える等の作業をしなければ作成できません。著作権の問題も対処する必要があります。

(2) ブックスタートについて

【運協委員】

3～4ヶ月の健診の喧騒の中での読み聞かせという状況はどのような感じなのでしょう。図書館での絵本配布は3歳児にも行なうとのことでしたか。また配付される絵本は皆同じなのでもう少しバラエティーがあると個性があり良いのではないのでしょうか。

【事務局】

3～4ヶ月の健診会場はすごい状態です。図書館であっても自宅であっても、子どもが本と親しむ状況を作り出したいというのが図書館側の狙いです。本の楽しみを親御さんが少しでも享受することによって子どもたちにもつなげていければと考えています。中央図書館の小さい子向けお話会や、地域図書館で行なっているお話会をPRして、図書館に来ていただくことも考えています。3歳児については実際に図書館に来ていただきたいので、その場でお渡しするのではなく、図書館に来ていただいた際に本を渡していきたいと考えています。本のバリエーションがあったほうが良いというのは分かりますが、予算の関係もあり、これからの課題としてとりあげさせて頂きたいと思います。

(3) カウンターサービスの向上について

【運協委員】

レファレンスについて、図書館側の能力の向上等が挙げられていますが、区民の方たちは「レファレンス」という言葉自体も、そういう窓口があることも知らない場合があるので、具体的にどのようにお知らせしていくのでしょうか。

【図書館委員】

来年の2月、ICタグの導入に伴い、自動貸出機、セキュリティゲートを設置してカウンターを移動させるなど、図書館のレイアウトを大幅に変更する予定です。「レファレンス」という言葉は利用者の方になじみがないようで、以前も「相談コーナー」や「調べものお手伝いします」などはどうかという意見をいただきましたので、どのような表示にしたら利用する方が気楽にカウンターの職員へ声をかけられるか検討していきます。

【運協委員】

カウンターサービスの数値目標は1日に60件ということですが、一般的には利用される方は検索能力を持っているので、そのうえで図書館に質問に来るということは当然自分の能力では解決できない専門的なものを要求されて困っているのだと思います。今後質の高いレファレンスは相当出てくると予想されるので、データベースの端末を置くだけでなく、今までのレファレンスを分析して、どのようなレファレンス内容が増えてきているのかということを知る必要があります。対応する職員の接遇も大切です。たとえば担当する職員の名前を貼り出して、どの分野で強いレファレンスができるということを示せば、レファレンスの回転率は上がります。司書の資格を持つ人の85%は文科系ですが、この頃は派遣職員などの募集でも、理工系で司書の資格を取得している人を採用したい等といわれるようになってきています。それぞれの専攻分野のうえで司書の資格をお持ちだと思うので、それを活かすような形でレファレンス担当に配置していけば働き甲斐も出てくるのではないかと思います。

【図書館委員】

レファレンスの質については、レベルごとに統計を取っています。1週間くらいかかるかなり難しいレファレンスも増えていて、それだけ図書館に期待されていることの表れとも思います。課題の解決については、前よりはかなり早くできるようになってきましたが、やはり難しいものもあるのが事実です。能力の限界もあり、経験を積みたいと考えています。解決しきれない内容のレファレンスは都立図書館にバックアップしてもらいながら行っています。得意分野でレファレンスを行なえるようなレベルまで職員は成長していませんが、担当した職員がそのレファレンスをやり遂げるのではなく、職員個々に専門性を

持たせて対応していく方向も検討していきたいと思います。しかし、一度担当を固定してしまった場合、人事異動等もあるので職員を手当できるかどうかという問題もあり、今はどういう形にすれば一番良いか模索しています。

(4) 学校図書館について

【運協委員】

5番目の「子ども読書活動の推進」について、学校図書館への図書館司書派遣とありますが、図書館司書の方を通じて具体的にどのような活動をお考えでしょうか。PTAやボランティア組織が読書活動を盛んに行なっている学校とそうでない学校がありますが、ボランティアの育成やバックアップというのは図書館ではなくて教育委員会ですのですか。

【事務局】

学校図書館への図書館司書派遣はこども図書館が担当します。現在12学級以上の学校には司書の資格を持った方が配置されていますが、図書館専門ではなく、実際にはほかの教科や担任を兼務しているのが現状です。図書館司書の派遣は、地域である程度グルーピングして週に必ず1回以上学校図書館に伺えるようなことを考えています。人員にも限度がありますし、ボランティアグループが育っている学校については無理に強いるものではありません。図書館も教育委員会の組織のうちなので総合的にサポートしていきます。学校図書館の司書の先生の活動も手本にしながら、学校間で差を生じないように運営できればと思います。

【運協委員】

せっかく蔵書率を100%にさせていただきましたので、子どもたちにどんどん学校図書館を使わせたいと思います。ただ、司書教諭は基本的に学級担任も兼任していてなかなか時間がないので、保護者の方や地域の方のご協力を頂けるとありがたいです。近々学校で保護者の方にご協力をお願いし、組織を作っていかなければならないのですが、効率的に進めるためには図書館司書の派遣を受けて学校でボランティア講座を開く方法もあり、そうすれば学校のボランティアも充実してくると考えられます。そういった面でのご協力を中央図書館にお願いしたいと思います。

また教員には配本車で運んでいただく図書を図書館に選びに行く時間がなかなかとれないので、中央図書館や地域図書館の本を検索でき、借りたい本を図書

館に行かずに選べるようなシステムを導入していただきたいです。団体貸出冊数29,759冊とあり、今年目標は38,000冊ですが、インターネットによる検索と貸出申込み、配本車のこまめな配本を組み合わせれば、登録団体数も貸出冊数もかなり増えるのではないかと思います。学校でも本を買うのですが予算に限りがあり、子どものニーズに応えるだけの本を買い、蔵書を増やすということが出来ません。中央図書館側で学校図書館のシステムを充実して頂けるとすごくありがたいと思います。

幼稚園は絵本を充実させて頂けるとありがたいです。幼稚園は園児数は定員いっぱい担任は1名ずつなので、事故を起こしてはいけないということもあり、なかなか本を読んであげられません。読み聞かせのスタッフの派遣や、ボランティアの養成は学校として大変ありがたいです。

【事務局】

学校の先生や保育園の保育士さんには図書館に本を見に来ていただき、選んでいただいたほうが良いと思っています。ただお忙しい事情も分かりますので、冊数をとりまとめたパッケージを作り、要望がある学校等にはパッケージ単位で配本車を使って送っています。学校には図書館のシステムは入っていませんが、一般のインターネットを利用してホームページから検索できますのでご利用頂ければと思います。

区立小学校は30校、区立幼稚園は25園、中学校は11校ありますので、団体貸出登録団体の割合は合わせると58%くらいです。その他に私立幼稚園等も入れるともっと増えますので、78%まで引き上げたいと思います。子ども図書館の一般の利用者に影響のないように、毎年本を購入し、団体貸出用の図書を揃えつつありますが、100%ご希望に副えるようになるにはもう少し時間がかかります。

【運協委員】

今はボランティアを募集している場所が増えているので、図書館にも読み聞かせの指導などに深く関わるようなボランティアが緊急に必要ではないかと思っています。司書の方が全部読み聞かせのプロだとは思いませんし、これからトレーニングしたりすると思うのですが、そういう機会と一緒に区民のボランティアも訓練していただけるとありがたいです。司書の資格は持っているけれども使っていらっしゃらない方たちがたくさん応募なさるかもしれません。

【運協委員】

学校図書館の司書教諭は学校図書館法の規程で12学級となっていますけれども、23区はほとんど配置されていると思います。ただ大部分の方は講習で資格を取られていて、ペーパードライバー的な方も多いのが現実です。児童生徒への基本的な利用教育や利用指導をできる先生は少ないです。図書館と学校が連携をするときは、各小中学校の教科別の先生の集まり等で、図書館の方たちが、学校ごとの単年目標の教育をどうしているのかなどの情報を早く得て話をする場が必要です。新宿区では中学校に比べ、小学校はその体制がまだできていないため、目標を立てて動こうとしてもバラバラになってしまいます。分科会的な場で司書教諭と新宿区がすり合わせをしてきちんと対応していくことが必要と思います。さらに、OPACの検索の仕方を学校司書に基本的に教えることが必要です。学校側は例えば2年生の前期にこういう学習をメインにしたいというものがいくつかあると思いますので、どの段階で本を借り受けるかという計画的な年間スケジュールを作っておくことが大切です。小学生や中学生も「図書館はあらゆる学習の中核になるんだ」という認識をもつような学校図書館の運営を行なえるよう校長先生からもお話して頂ければありがたいと思います。

読み聞かせについてですが、東京子ども図書館で読み聞かせの養成講座の受講生を年4回くらい募集しているはずですが、何でも自前で養成するのは大変です。ですから、そういう講座に参加できるようにすれば良いと思います。

6. 終わりに

【会長】

全ての項目ではなかったと思いますが貴重なそれぞれの立場からの意見がありました。

全体としては、サービスのより良い向上に向けてという点と、向上のために図書館の職員の専門性をより高めていく点が挙げられました。また区民もただサービス向上を訴えるだけではなく、区民自身もボランティア自身もきちんと利用できるように自分たちを高めていくことも併せて、図書館運営のあり方を考えていく必要があるのかなと思いました。ボランティアで有償というのは矛盾かもしれませんが、有償ボランティアという可能性も考えてみる必要があると思います。ただ善意で支えられるだけで良いのかなとも思いました。

【図書館委員】

皆さんから色々なご意見をいただき、ありがとうございました。

今回、図書館の基本方針を配付しましたが、今後のひとつの指針になると思っています。実際に区も財政的に厳しい中、かなり図書館へ割り当てています。図書館が何かをするだけでなく、皆さんも図書館を利用するだけでなく、どういう方法で皆さんが機能を支えていくのか、その辺はこれから色々な形で検討していきたいと考えています。今後大きく広げるためには、有償ボランティアも視野に入れる必要があるかと思えます

ICタグの導入による特別整理日の減による開館日拡大、カウンター業務の迅速化等の効果を踏まえ、さらに図書館の職員のレベルを高めていきたいと考えています。より大きな可能性を感じることができる方向に向けて進めていきたいので今後ともよろしく申し上げます。

以下略

(フリートーキングにより、運協委員から視聴覚資料の今後のあり方、音楽データベースの配信サービスを利用した音源提供についてのご意見を伺いました。)

7. 次回の日程

次回は7月1日(火)午前10時15分から、中央図書館大会議室にて開催します。